



一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構 2019-2020 年度社員総会 議事録*

(*但し、新型コロナウイルスの蔓延とタイにおける国際航空便の飛行禁止令のもとで、代表理事が 2020 年 2 月 20 日から 2020 年 6 月現在に至るまで同法人のアジア拠点があるバンコクでの滞在を余儀なくされた。故に、本来ならば法人の定款で規定されている事業年度終了の 2020 年 3 月 31 日より 3 か月以内に年次社員総会を開催するところであるが、その実施が非常に難しい状況が発生した。その為、NPO 法第 14 条 9 “社員総会決議の省略” の規定に準じ、1) 2019 年度事業報告、2) 2019 年度会計報告、3) 2020 年度事業計画、の書面と電磁的記録により社員総会を開催したとみなし、ここに議事録を作成した。又、当法人は 2018 年度の会計年度半ばに正式認可された経緯があり、2019 年 3 月の 2018 年度末決算期において主だった支出がなく(2018 年度の会計報告義務が担当官庁により免除された)報告事項が無かったため、2019 年度 3 月決算後の社員総会は省略され、今回、2020 年 3 月の決算後の社員総会でその一部をカバーした)。

開催日： 2020 年 6 月 3 日 (書面の回覧と電磁的記録による)

承認サイン／印

参加者：座長： 小沼廣幸 (一般社団法人アジア自立支援機構代表理事) 承認済み _____

理事： 野口良造 (筑波大学准教授) 承認済み _____

理事： 筒井哲朗 (一般社団法人シェア・ザ・プラネット代表理事) 承認済み _____

社員： 小沼三恵子 承認済み _____

議題： 1) 2019 年度の事業報告
2) 2019 年度の会計報告
3) 2020 年度の事業計画
4) その他の事項
5) まとめ及び決定事項

(筆責 小沼廣幸 2020 年 6 月 6 日)

1) 2019年度の事業報告

小沼代表理事（座長）により 2019 年度の事業報告書が提出され（添付資料 1 参照）、以下の要旨の説明が有った。。

2019 年度はアジア自立支援機構にとり、実質的な活動を始動した充実した年であった。設立したばかりの法人が外部からの活動資金を確保することは困難であつたが、活動の実績なしにして将来の外部資金の獲得は難しい、という判断から、自己資金や法人関係者からの支援・寄付を頼りに活動資金を確保し、当初目標についていた活動にはほぼ等しい量と質の活動が可能になり、一部で新型コロナウイルスの影響で活動に遅れをきたしたが、当初予定していた 2019 年度の活動目標をほぼ達成できた。又、限られた予算を活動経費として最大限に有効に使うために、人件費やその他の固定費への支出を避け、できるだけ多くの予算が受益者たちに直接届くように考慮した。2020 年度は、官民の NGO 支援基金や CSR に対する申請を積極的に行い、外部資金の獲得に努力する所存である。他方、学識豊かで、経験豊富な 2 人の理事と 2 人の非常任理事に就任していただき、法人として心強いサポート体制を確立することができた。又、会計業務においては、2019 年度会計報告から坂本税理士に法人の会計業務を引き受けいただき、法人として会計や税務処理上の能力や信頼性を身に付けることが可能になった。2020 年度の更なる飛躍を目指したい。

2) 2019 年度の会計報告

小沼代表理事より 2019 年度の会計報告がなされた（詳細は添付資料 2 参照）。2019 年度の財源は前年からの繰越金 1,438,650 円と新たな寄付金の 2,003,000 円の合計 3,441,650 円と他の雑収入による。それに対して支出の合計は 2,681,758 円で、残りの 759,879 円が繰越金として 2020 年度に繰り越された。2019 年度より会計管理と会計報告の信頼性向上を確立するため、坂本税理士に会計業務を担当してもらい、以下の会計報告書表が作成され、担当官庁に提出された。

- 貸借対照表
- 正味財産増減計算書とその内訳表
- 財務諸表に対する注記
- 貢献目録

3) 2020 年度の事業計画

小沼代表理事により 2020 年度の事業計画が説明された（添付資料 3 参照）。

2020 年度（2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで）は基本的には 2019 年度から継続する 4 つの分野を含めた以下の 5 つの優先事業とその他の活動を中心に行う予定である。2020 年度の事業資金は主として寄付金により捻出する事とするが、同時に官民の基金や CSR などに積極的に応募し外部資金獲得に努力する。又、アジア諸国を含めた新型コロナウイルスの蔓延や終息の見通しが不透明な事や、第 2 波や第 3 襲来

の可能性があり、それにより当法人の活動に大きな制約がもたらされるであろうことを念頭に、流動性を持つて対応する方針が述べられた。

a) 2020年度事業予算

➤ 1. タイ北部メーチャンタイ村のコーヒーを中心とした加工技術向上と山岳民族の生活向上支援	2,322,000	円
➤ 2. カンボジア小規模農民グループへの自活支援	700,000	円
➤ 3. バングラデシュにおける乳用ヤギの普及	未定	0 円
➤ 4. タイ南部サゴヤシ林の保全と有効利用	197,000	円
➤ 5. グローバル人材育成支援	273,000	円
➤ 6. その他の活動	未定	0 円

支出（予定）の合計	3,492,000	円

b) 収入予定	前年度からの繰越金	759,879	円
	社員からの年会費	40,000	円
	寄付金（予定）	2,692,121	円

収入（予定）の合計			3,492,000 円

4) その他事項

筒井理事より事業報告や事業計画に記載してある筒井理事が代表理事を務める法人の名称の記載ミスが指摘された。それに対して小沼代表理事より修正がなされた。野口理事からの質問に答えて、2020年度の事業資金は外部資金の獲得を目標に置くものの、確実に事業を実施する為に基本的には寄付金（自己資金を含む）を財源として確保すると、小沼代表理事より説明があった。

定款第6条2で規定されている社員(小沼廣幸と小沼三恵子の2名)が支払わなければならない年会費であるが、その額を一人につき年1万円とする事が合意された。但し、2020年度は未払いであった2019年度分を加えて、一人2万円（2人で4万円）とした。

5) まとめ及び決定事項

上記の事項に関する説明や意見の交換経て、アジア自立支援機構の2019年度業務報告、2019年度会計報告、及び2020年度事業計画が社員総会により承認された。

添付資料 1



一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構（GIAPSA）

2019 年度事業報告

（期間：2019 年 4 月 1 日—2020 年 3 月 31 日）

目次

頁

1. 2019 年度の活動の概要と展望	3
2. 2019 年度目標と重点活動	3-4
3. 2019 年度に実施した事業の詳細	4
3.1. タイ北部メエーチャンタイ村における村民の自助努力 によるコーヒーを中心とした農業生産組合支援事業	4-6
3.2. カンボジア北部における自活の為の小規模農民グループ支援事業	6
3.3 バングラデシュにおける小規模農民グループ支援	7
3.4 タイ南部のサゴヤシ林の保全と研究活動	7-8
3.5 その他の活動	8-10
4. 法人の組織や管理運営能力の強化に対する取り組み	10
5. 法人の財源や活動資金に関する報告	10-11

1. 2019年度の活動の概要と展望

2019 年度はアジア自立支援機構にとり、実質的な活動を始動した充実した年であった。設立したばかりの法人が外部からの活動資金を確保することは困難であつたが、活動の実績なしにして将来の外部資金の獲得は難しい、という判断から、自己資金や法人関係者からのご支援・ご寄付を頼りに活動資金を確保し、当初目標についていた活動にほぼ等しい量と質の活動が可能になり、一部で新型コロナウイルスの影響で活動に遅れをきたしたが、当初予定していた 2019 年度の活動目標をほぼ達成できた。又、限られた予算を活動経費として最大限に有効に使うために、人件費やその他の固定費への支出を避け、できるだけ多くの予算が受益者たちに直接届くように考慮した。2020 年度は、官民の NGO 支援基金や CSR に対する申請を積極的に行い、外部資金の獲得に努力する所存である。他方、学識豊かで、経験豊富な 2 人の理事と 2 人の非常任理事に就任していただき、法人として心強いサポート体制を確立することができた。又、会計業務においては、2019 年度会計報告から坂本税理士に法人の会計業務を引き受けていただき、法人として会計や税務処理上の能力や信頼性を身に付けることが可能になった。2020 年度の更なる飛躍を目指したいと思う。

2. 2019 年度の目標と重点活動計画

2019 年度は当法人 (GIAPSA) にとり、その目的や趣旨を実際の活動として実践・実施する最初の年になった。法人の定款で定める 9 つのすべての事業を最初から手掛けるのは無理があり、それ故、いくつかの優先的重点活動を選択し、そのうち主として 4 つの事業（予算総額 350 万円）を重点活動として計画を立てた。その内訳は：

- A) タイ、チェンライ県メーキエンタイ村（貧しい山岳少数民族アカ族の村）における村民達の自助努力によるコーヒー生産や加工を中心とした生産組合発足の為の支援と持続可能な村民の収入増加や生活レベル向上支援事業；
- B) カンボジア北部（シアムリープの北）の貧しい村の農民たちの自発と自助努力による農業生産グループの形成と運営、収入増加・貧困解消の為の支援事業；
- C) バングラデシュにおける小規模農民達への支援活動（現地の NGO の SSS を支援）；
- D) タイ南部のナコンシタマラートやトラング地域に生育し、その数が急速に減少している環境作物であるサゴヤシの保全と有効利用を推進する事業。

上記以外に、新しいプロジェクトの発掘調査や立案、若者に対するグローバル人材の育成支援、大学における開発教育や SDGs に関する講義や講演、国際 NGO や政府機関に対する技術アドバイス、マスコミを通じた啓蒙活動などを当初の予定とした。2019 年度の活動計画（2018 年度作成）に関しては当法人のホームページに掲載してあるのでご参考にしていただきたい。

3. 2019 年度に実施した事業の詳細

3.1. タイ、チェンライ県メーキエンタイ村（貧しい山岳少数民族アカ族の村）における持続可能な村民達の自助努力支援事業

2018年に始まった事業案の作成は、チェンマイに本部を置く国際NGOのAIPP(アジア先住民族支援機構)やIMPECT(タイ山岳民族連絡協議会)の協力により、3度の現地調査とメーチャンタイ村リーダー達との数度の協議の末事業案が完成・合意に至り、2019年7月29日にチェンマイで合意書に調印し、2019年8月1日に3年間の事業の開始に至った。

総事業費約380万円のうち、2019年度はGIAPSAから約230万円を拠出し、残りを村の受益者が現物供与及び加工場建設の労働賃として負担した。GIAPSAからの資金は主としてコーヒーの加工を中心とする農産物加工場の建設資材の購入、設置される加工や包装機械・器具類の購入資金、そして村民たちに対するコーヒー栽培や加工販売などのセミナー開催の費用に使われた(詳細は事業収支報告参照)。この事業は村の青年たちが中心に自主的に設立されたメーチャンタイ村コミュニティ事業組合のコーヒーの共同加工とメーチャンタイコーヒーのブランド化を中心とする村おこし運動を支援するもので、自然環境に調和した栽培や加工技術の改善によりコーヒーなどの農産物の質と市場価値を高め、村民の収入と若者を中心とした雇用の向上、環境保全、そして生活レベルの改善を図るものである。

この事業に対する2019年度の主な活動の詳細は以下である。

- 2019年7月：GIAPSA代表理事とメーチャンタイ村コミュニティ事業組合長との間で3年間のプロジェクト合意書が調印された。合意したプロジェクトの要旨(英文)は以下である。

Project Summary

Project Symbol:	GIASPA/2019/01
Project title:	Community Based Sustainable Livelihood Development in Mae Chan Tai Village
Project Venue:	Tha Kor S.-District, Mae Suai District, Chiang Rai Province, Thailand
Starting Date:	1 August 2019
Duration:	3 years
Executing Agency:	Mae Chan Tai Community Enterprise (MCT-CE)
Donor Agency:	General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)
Supporting Agency:	Inter Mountain Peoples Education and Culture in Thailand (IMPECT)
Total Budget:	Thai Baht 1,137,500
(Donor contribution:	Thai baht 696,000)
(Counterpart:	Thai baht 441,500)

Thailand has achieved a remarkable economic growth in recent past. However, the bottom 10% of the population is still suffering from poverty, primarily with a lack of sufficient income and employment opportunities. Out of several disadvantaged groups who are suffering from poverty, indigenous people living in the mountainous hill areas constitute one of the largest poverty groups in Thailand and Southeast Asia. Without targeting to support these poor hill tribes, the goal of poverty eradication (towards achieving 0 %); one of the most important Sustainable Development Goals (SDGs), would never been achieved. This project, therefore, is aimed at building up a self-help capacity of indigenous communities in Thailand and establish a replicable model which would serve as a model for community based sustainable livelihood development of mountain villages in Thailand and beyond. More specifically, the immediate objective of the project is to improve the livelihood of the villagers in Mae Chan Tai village through the promotion of community-based enterprise for quality coffee production, processing and marketing, and enhancing their income, employment and living conditions.

- 2019年8月、GIAPSAから建設資材が提供され、メーチャンタイ村の村民達により農産物加工場の建設が開始された。
- 2019年10月に第一回 Project Steering Committee Meeting が現地メーチャンタイ村で開かれ、事業趣旨や年次事業計画の説明と合意などが話し合われた。この会議には当事者のほか、IMPECT（タイ山岳民族連絡協議会）代表、マエスアイ郡役場代表、ロイヤルプロジェクト財団地域部長、農業組合省高地農業研究所（HRDI）代表などをアドバイザーとして招待し、地方政府や地域組織との関係の強化や地域をあげたプロジェクトに対する支援体制の確立を目指した。
- 2019年12月、メーチャンタイのコーヒー栽培農民に対するコーヒーの栽培、加工、販売等に関する2日間のセミナーを高地農業開発研究所（HRDI）専門家の協力のもとでメーチャンタイ村で実施し、女性を含め延べ40人以上の参加者があった。
- 2019年12月、農産物加工場の建設が完了し、12月29日に開所式が行われた。GIAPSA代表理事や関係者が日本から招待され開所式に参加した。
- 2020年2月、3月、農産物加工場に設置するコーヒー豆の脱穀機、真空包装機等の購入と設置を完了し、コーヒー豆の共同加工に実施に寄与した。

3.2. カンボジア北部（シアムリープの北）の貧しい村の農民たちの自発と自助努力による農業生産グループの形成と運営に対する援助と収入増加・貧困解消の為の支援事業

- 2019年6月、GIAPSA代表理事が技術顧問を務めるアジア村落開発支援ネットワーク（ASIADHRRA）の協力で、カンボジア・シアムリープ県、バンテアイスレイ郡（アンコールワットの北東へ100キロほどの地域）の貧しい農民達が団結して形成された農業協同組合の自活・持続可能な発展に向けた取り組みを支援する目的で、養鶏農家互助グループに対して養鶏や鶏卵生産資機材を有償・無利息で提供し、返済された資金を組合の回転基金として再利用して将来他の受益者たちに支援の輪が広がることを目的とする事業案の作成に着手した。
- 2020年1月、プロジェクト計画案の最終的な詰めの為現地を訪問し、現地NGOのCamboDHARRAや受益者である農民達と協議を実施した。この地域では小口金融等に関する理解や、受益者たちが受けとった資金を無利息で返済する制度等の経験がないため、農民達の理解を得るのに多くの時間を要した。とりあえず理解を示したグループを対象にGIAPSAの独自予算で小規模に（総額約60万円、受益者数6人）パイロット事業を開始し、将来、外部資金獲得の可能性も含めて規模を少しづつ拡大するという方向で合意した。新型コロナウイルスの蔓延で事業合意書の作成が遅れているが、2020年7月頃には最終的な事業合意書に調印する予定である。

3.2. バングラデシュにおける小規模農民グループ支援

- 一般社団法人シェア・ザ・プラネットの技術顧問としてバングラデシュ北部を訪問した。その時に、現地 NGO の SSS のブンヤン会長と協議し、バングラデシュ北部の子供たちの栄養失調の改善と貧しい農民達の収入増加を目的にインドやキプロス方面から乳生産用のヤギを輸入して農民達に配分することで意見が一致し、GIAPSA はそれに対して技術的、財政的な支援する方向で模索してきた。ヤギは牛と違い値段が安く、繁殖力が強く、病気等による損失も少なく、多いものでは 1 日に 2—3 リットルのミルクを生産し、小規模農家を支援する事業として適していると考えられる。その後、ブンヤン氏の健康状態が原因したことや連絡が取りにくい事情もあり、事業案作成の進展が遅れた。他方、ブンヤン氏は SSS の独自予算で既に乳用ヤギの買い付けをインドから行っているという情報もあり、もしそうであればポジティブな進展である。こうしたことも含めて、2020 年 3 月にバングラデシュの現地を訪問し新たに協議する予定でいたが、新型コロナウイルスの蔓延で訪問が延期になり、この事業案は 2020 年度 8 月以降に再度検討する予定である。

3.4. タイ南部のサゴヤシ林の保全と研究活動

- 近年までタイ南部の農耕に適さない湿地帯にはサゴヤシ林が多く存在し、サゴヤシは地域の小規模農民達のデンプン採取による食用利用、葉を屋根材として売ることによる農民の収入の確保、地域の環境保全や植物多様性の保持、伝統的な地域文化の維持などに貢献してきたが、近年、油ヤシや天然ゴム栽培の急速な拡大に影響されて数を急速に減らし、タイ南部では絶滅の危機に立たされている。タイ南部のトラングにあるサゴヤシ保護の先駆的現地 NGO であるヤドホン協会はサゴヤシ保護や有効活用の活動を長年続けて来たが、会長ご夫妻の老齢化に伴い活動を停止した。
- こうした事情を考慮し、2019 年 11 月、タイにおけるサゴヤシの有数な生植地の一つであるナコンシタマラート県を訪問し、現地の Rajabhat 大学と Rajamangala 大学とサゴヤシ専門家の Nipon 氏と共にサゴヤシの保全や研究に関する協議や新しい共同プロジェクトの可能性を探る事前調査を行つた。この地域ではサゴヤシ林は過去 10 年間に 4 分の 1 にまで減少したといわれる。基本的にはサゴヤシの経済効果が一番高いと思われる屋根材としての葉の栽培を中心としたサゴヤシ生産試験圃場を設立し、農民にとりどれだけ収益に結び付くか実地試験とデモンストレーションを行うということで大筋な合意をした。
- 2019 年 12 月に再度現地を訪問し、ナコンシタマラート県トンソング郡カパング村の農民サトジャ氏と GIAPSA はサトジャ氏が所有する 1000m² の湿地でサゴヤシの計画栽培と屋根材用の葉の生産と経済効果の圃場試験を行うことに合意した。
- 2020 年 1 月に、試験圃場の整備と区画の確定を Rajamangala University of Thechnology Srivijaya の協力のもとで実施した。最終的には 1000m² の長方形の試験農地に 3 メートルの間隔をあけ 100-120 本のサゴヤシの苗木を雨期に入る 5 月から 6 月に植林することで合意し、翌月の 2 月末に再度現地を訪れ、圃場デザインの確認と圃場試験の準備の進行具合を視察した。

3.5. その他の活動

上記のプロジェクト（事業）ベースの活動以外に新しいプロジェクトの発掘調査や立案、若者に対するグローバル人材の育成支援、大学における講義や講演、国際 NGO や政府機関に対する技術アドバイス、SDGs や世界の貧困・飢餓・格差問題等に対する啓蒙活動などを実施した。詳細は以下である。

- 持続可能な科学技術統合国際会議の企画委員の一人として、2019 年 5 月(中国 Songyang)での有機農業に関する国際会議の開催準備への支援や会議での基調講演・司会等等を行った。
- 2019 年 5 月、GIAPSA は共同通信社の取材に協力して、将来タイと日本の間で共同認証が行われる予定の GI(地理的表示保護)認定農産物のディチャンコーヒーとウタラディトパイナップルの産地を訪問した。
- アジアの村落開発を支援する国際 NGO の AsiaDHRRA の上級顧問として、継続して技術アドバイスの提供や定例会議への参加を行つた(2019 年 6 月ベトナム、ハノイ)。
- 中国の南京財政経済大学に招待され、学生達に世界の農業や食料安全保障の将来に対して講演を行つた (2019 年 6 月)。
- 2019 年 9 月、GIAPSA は明治大学農学部夏季短期研修プログラムに協力してバンコク近郊の農民達の利益と技術移転を優先した安全で質の高い有機野菜生産の契約栽培モデル的存在のソフトカンパニーの本社と、加工場、契約栽培農家を案内した。
- ミャンマーのイラワディルタのマングローブ植林事業の事前調査でミャンマーを訪問し現地の NGO や関係者と可能性を協議した(2019 年 7 月)。結果的にカウンターパートとなるミャンマー側 NGO の協力に限界があり、この事業案は廃案になった。
- 2019 年 9 月、タマサート大学ランシットキャンパスにて、山梨県の都留文科大学の短期留学生達と青山学院大学の留学生に対して、世界の共通目標 (SDGs) や 2050 年に向けた世界の重要課題、国連の役割などについて講演を行つた。
- IUCN の案内で Samut Songkram Bang Kaeo 村 (バンコクから約 80 km) のマングローブ・リハビリテーション事業を視察し、将来の GIAPSA の事業支援の可能性について調査した(2019 年 10 月)。この地域はすでに多くの NGO やドナーがマングローブの植林事業を行つており、法人の事業として別の地域を探すことで合意した。
- 2019 年 10 月、タイ、バンコクのチュラロンコン大学にて教育機関と民間セクターが協力してタイにおける食品ロス削減の為のプロジェクトを立ち上げるための準備委員会のブレーンストーミング

グ会議が開催され、GIAPSA は正式メンバー（アドバイザー）として委員会に加わった。この会議で GIAPSA の代表理事は世界やアジアの食糧安全保障問題や食品ロス問題に関して要請に基づいて約 1 時間の基調講演を行った。

- GIAPSA 代表理事はタイ国立シーナカリンウイロート大学経済学部の客員教授として、SDGs や環境問題、グローバル課題に対する理解の向上を目指して、受講した学生達に対して講義（週 3 時間 × 13 週）や学生に対するアドバイスを行つた（タイ、バンコク、2019 年 8 月－2020 年 1 月）。
- 2020 年 1 月、都市部に住む若者とメーキャンタイ村（高度 1400 メートルの山岳地域に位置し、道が悪く電気がまだ引かれていない）の村民たちとの交流の促進や若者を中心とするグローバル人材育成を目的として、2 泊 3 日のメーキャンタイ村におけるコーヒー豆摘み取りボランティアツアーを GIAPSA がタイ国立シーナカリンウイロート大学経済学部の協力のもとで実施した（経費は GIAPSA 活動資金から全額負担）。バンコク在住のタイ人や日本人の社会人や大学生、及び引率教員 2 人を含む 20 人の参加者があった。ほとんど全員の参加者がこのボランティアツアーに感激し、厳しい環境での少数民族の生活や実際のコーヒー豆の摘み取りを経験した有意義な体験を得たことに感謝した。毎年同様な企画を継続したい。
- フィリピン大学の大学の国際化やそれに対応する職員達の人材育成ワークショップに GIAPSA の代表理事が招待され世界の重要課題や直面する問題、若者の人材育成の重要性などに関して基調講演を行つた（2019 年 11 月）。
- GIAPSA 代表理事は中国安徽省で開かれた第 8 回持続可能な発展への研究と技術の統合国際会議（参加者約 20 か国から 300 名）に招待され、基調講演と技術分科会の座長を務めた（2019 年 11 月）。
- 新聞のコラム（GIAPSA 代表理事はコラムニストとして毎月、新潟日報に執筆中）やマスメディアを通じて、貧困、飢餓、格差、環境等のグローバル課題について啓蒙活動を行つた（2019 年 4 月－2020 年 3 月の毎月）。

4. 法人の管理能力強化に対する取り組み

- 4.1. 法人業務の円滑な活動と管理能力を向上するために、茨城県つくば市の法人の本部に加えて、タイ王国バンコク市にアジア拠点を開設した（2019 年 4 月）。
- 4.2. ご本人の承諾を得て、法人の理事に
野口良造 筑波大学准教授 筑波大学院生命環境科学研究科
筒井哲朗 代表理事 一般社団法人シェア・ザ・プラネット
(元シャープラニール=市民による海外協力の会事務局長)

非常任理事に
加藤久和 明治大学政治経済学部教授
八丁信正 近畿大学農学部教授 に就任していただいた。

5. 法人の財政や資金に関する報告

- 5.1. 2019 年度は法人の活動の実質的初年度にあたり、活動資金は法人関係者からの入会費や寄付等により確保した。2018 年度からの累計の寄付金の合計は 3,403,000 円で、社員年会費の合計は 40,000 円であった。2019 年度の活動資金のほとんどは、この寄付金で賄われた。詳細な会計報告は別紙参照。
- 5.2. 2020 年度は初年度の経験と実績にもとづき、外務省や国際協力機構、その他官民団体の基金や CSR 資金に積極的に応募し、より多くの財源が確保できるよう努力する予定である。

2019年度 第2期財務諸

自 2019年4月 1日
至 2020年3月31日

一般社団法人 アジア自立支援機構

貸 借 対 照 表

2020年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産 現金預金	759,879	1,438,650	-678,771
流動資産合計	759,879	1,438,650	-678,771
2 固定資産 その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資産合計	759,879	1,438,650	-678,771
II 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計	0	0	0
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1 指定正味財産 (うち基本財産への充当額) (うち特定資産への充当額)	0 (0) (0)	0 (0) (0)	0 0 0
2 一般正味財産 (うち基本財産への充当額) (うち特定資産への充当額)	759,879 (0) (0)	1,438,650 (0) (0)	-678,771 0 0
正味財産合計	759,879	1,438,650	-678,771
負債及び正味財産合計	759,879	1,438,650	-678,771

正味財産増減計算書
 (2019年4月1日から2020年3月31日まで)
 (単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費		40,000	-40,000
② 受取寄付金	2,003,000	1,400,000	603,000
③ 雜収益	1,840		1,840
経常収益計	2,004,840	1,440,000	564,840
(2) 経常費用			
① 事業費			
建設資材購入費	1,234,301		1,234,301
旅費交通費	278,589		278,589
消耗工具費	1,040,780		1,040,780
セミナー開催委託費	71,060		71,060
農地整備費	35,600		35,600
支払手数料	20,620		20,620
雜費	2	0	2
事業費計	2,680,952	0	2,680,952
② 管理費			
事務用品費	1,281		1,281
諸会費	1,375	1,350	25
雜費	3		3
管理費計	2,659	1,350	1,309
経常費用計	2,683,611	1,350	2,682,261
評価損益等調整前当期経常増減額	-678,771	1,438,650	-2,117,421
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-678,771	1,438,650	-2,117,421
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
雜損失	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額			
当期一般正味財産増減額	-678,771	1,438,650	-2,117,421
指定正味財産からの振替額		0	
一般正味財産期首残高	1,438,650	0	1,438,650
一般正味財産期末残高	759,879	1,438,650	-678,771
II. 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	759,879	1,438,650	-678,771

正味財産増減計算書内訳表 (2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	事業 部門							管理部門	内部取引控除	金額			
	タイ北部	カンボジア	バングラディッシュ	タイ南部		共通	事業部門計						
	コーヒー加工技術 向上と山岳民族生 活向上支援	小規模農民グル ープへの 自活向上支援	小規模農民への 支援	サゴヤシ保全と 有効利用	その他								
I. 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
① 受取会費							0			0			
② 受取寄付金							2,003,000			2,003,000			
③ 雑収益							1,840			1,840			
経常収益計	0	0	0	0	0	2,004,840	2,004,840	0	0	2,004,840			
(2) 経常費用													
① 事業費													
建設資材購入費	1,234,301						1,234,301			1,234,301			
旅費交通費	39,282						278,589			278,589			
消耗工具費	1,040,780						1,040,780			1,040,780			
セミナー開催委託費	71,060						71,060			71,060			
農地整備費							35,600			35,600			
支払手数料							20,620			20,620			
雜費							2			2			
事業費計	2,385,423	25,279	0	72,209	177,419	20,622	2,680,952			2,680,952			
② 管理費													
事務用品費								1,281		1,281			
諸会費								1,375		1,375			
雜費								3		3			
管理費計								2,659		2,659			
経常費用計	2,385,423	25,279	0	72,209	177,419	20,622	2,680,952	2,659	0	2,683,611			
評価損益等調整前	-2,385,423	-25,279	0	-72,209	-177,419	1,984,218	-676,112	-2,659	0	-678,771			
当期経常増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
評価損益等計	-2,385,423	-25,279	0	-72,209	-177,419	1,984,218	-676,112	-2,659	0	-678,771			
当期経常増減額													
2. 経常外増減の部													
(1) 経常外収益													
経常外収益計													
(2) 経常外費用													
経常外費用計													
当期経常外増減額													
他会計振替額													
当期一般正味財産増減額													
一般正味財産期首残高													
一般正味財産期末残高													
II. 指定正味財産増減の部													

一般正味財産への振替額						0			0
指定正味財産期首残高						0			0
指定正味財産期末残高						0			0
III. 正味財産期末残高	-2,385,423	-25,279	0	-72,209	-177,419	3,420,209	759,879	0	0
									759,879

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

1 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
寄付金	2018年度寄付者	1,438,650	0	1,438,650	0	一般正味財産
寄付金	2019年度寄付者		2,003,000	1,244,961	758,039	一般正味財産

3. 関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

属性	役員、法人等の名称	住所	資本金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
代表理事	小沼廣幸	—	—	—	—	—	—	事業資金の寄付	2,000,000	現金預金	758,039

財産目録

2020年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金	普通預金 常陽銀行研究学園都市支店	事業用資金	759,879
流動資産合計				759,879
その他固定資産				
固定資産合計				0
資産合計				759,879
(流動負債)				
流動負債合計				0
(固定負債)				
固定負債合計				0
負債合計				0
正味財産				759,879

添付資料 3



一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構（GIAPSA）

2020 年度事業計画書

（2020 年 4 月 1 日—2021 年 3 月 31 日）

2020 年度の事業計画

2020 年度（2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで）は基本的には 2019 年度から継続する 4 つの分野を含めた以下の 5 つの優先事業とその他の活動を中心に行う予定である。2020 年度の事業資金は主として寄付金により捻出する事とするが、同時に官民の基金や CSR などに積極的に応募し外部資金獲得に努力する。又、アジア諸国を含めた新型コロナウイルスの蔓延や終息の見通しが不透明な事や、第 2 波や第 3 襲来の可能性があり、それにより当法人の活動に大きな制約がもたらされるであろうことを念頭に、流動性を持つて対応することとする。

2020年度事業予算

➤ 1. タイ北部メーチャンタイ村のコーヒーを中心とした 加工技術向上と山岳民族の生活向上支援	2,322,000	円
➤ 2. カンボジア小規模農民グループへの自活支援	700,000	円
➤ 3. パングラデシュにおける乳用ヤギの普及	未定	0 円
➤ 4. タイ南部サゴヤシ林の保全と有効利用	197,000	円
➤ 5. グローバル人材育成支援	273,000	円
➤ 6. その他の活動	未定	0 円

支出（予定）の合計 3,492,000 円

収入予定	前年度からの繰越金	759,879	円
	社員からの年会費	40,000	円
	寄付金	2,692,121	円

収入（予定）の合計 3,492,000 円

1. タイ北部メーチャンタイ村における全村民をあげた自助努力によるコーヒーを中心とした加工技術向上と山岳民族の生活向上支援（GIAPSA/2019/01）

2019 年 8 月に開始したこの事業は予定どおり順調に進展し、当初予定していた 3 年間の事業計画の約 8 割が最初の一年で完了した。農産物加工場の建設と脱穀機の設置に

より生豆 (green beans) の加工製造が可能になり、組合は使用する組合員から 1 キロの豆の脱穀につき 3 バーツの使用料をチャージし組合の回転資金とした。その中から 1 キロ当たり 1 バーツのオペレーターサービス料を人件費として支払った。2020 年 3 月から 5 月までに 18,839 キロ生豆がこの脱穀により加工生産され約 3 万 6000 バーツの組合の共同収入があった。次の段階として、農産物加工場を村民たちの共有財産として有効に管理運営する体制を確立し、焙煎機を購入してメーチャンタイブランドのコーヒー豆を製造し、ブランドの確立を進めながら国内外に販売ルートを開拓する予定である。又、アボカドの木を植樹したりアプリコットや他の果物を加工したりすることにより、コーヒー以外の収入の道を切り開く予定である。具体的には以下の活動を計画している。

➤ 改良種のアボカドの苗木の購入と植樹 @TB 150 X 780 本 = TB 117,000 2020 年 7 月末から 8 月初め (ボランティアと組み合わせる)
➤ コーヒー焙煎機 (小型焙煎能力 5 キロ) の購入・設置と訓練 TB 500,000 2020 年 6-7 月、コーヒーの共同加工とブランド化の推進
➤ アプリコットや他の果実の加工 (ドライフルーツなど) 技術訓練 TB 10,000 2020 年 10-11 月、村の女性を対象にする。時期は要再確認
➤ 事業の経済効果を調べるための Base Line Survey の実施 TB 20,000 2020 年 10-11 月、明治大学、SWU 等との協力の可能性を探る
➤ バンコクにコーヒーの直売店を開設或いは委託するための事前調査 n/a 2020 年 6-12 月、将来、コーヒーのブランド化を促進するため バンコクに直営コーヒーショップ開設の可能性を探る
➤ タイ国内航空賃、レンタカー料金などの国内交通費@6000 x 4 TB 24,000 現地視察や会議への参加、等の経費
➤ その他の経費 TB 10,000
小計 TB 681,000
日本円換算 (1 バーツ=3.41 円) (2,322,000 円)

2. カンボジア北部（シアムリープ）の小規模農民グループへの自活向上支援 (GIAPSA/2020/01)

2019 年 6 月にプロジェクト事前調査が始まったが、自発的にグループを形成し自助努力 (無利息のローンの返済を含めて) により農業生産をスケールアップしたいという農民グループがなかなか見つからず、最終的には Tbengkanglech Chokchey 農業組合の

養鶏グループ（組合員 6 人）に決まった。この事業はパイロット事業なので受益グループの規模は大きな問題ではないと考えられる。プロジェクト予算は

➤ 卵や鶏肉生産用の鶏のひな、飼料、鶏舎建設資材,孵化機、等 US\$ 6,400

日本円換算 (1 ドル=108.65 円) (700,000 円)

。事業の詳細は以下であり、2020 年 7 月 1 に開始される予定である。

Project Document

Project Symbol: GIASPA/2020/01

Project title: Improving the livelihood of poor rural farmers through the promotion of community-based self-help economic activities in Northern Cambodia (ILPORF)

Project Venue: Tbeng Lech Village, Banteay Srey District, Siem Reap province, Kingdom of Cambodia

Implementing Group: Poultry Group of the Tbengkanglech Chokchey Agric. Cooperative (PG-TCAC)

Beneficiaries: members of the PG-TCAC in Tbeng Lech

Village Starting Date: 1 July 2020

Duration: 2 years

Implementing partner: Farmer and Nature Net Association (FNN)

Donor Agency: General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)

Supporting Agency: CamboDHRRA and AsiaDHRRA

Total Budget: US dollars 6,400 (donor)

Summary

Cambodia has undergone a significant transition, reaching lower middle-income status in 2015 and heading to attain upper middle-income status by 2030. According to official estimates, the poverty rate in 2014 was 13.5% compared to 47.8% in 2007. However, many of them stand just above poverty line and vulnerable to falling back into poverty when exposed to economic and other external shocks such as new corona virus pandemics. In Cambodia, about 90% of the poor live in the rural areas (World Bank) and majority of them are engaged directly or indirectly in agriculture.

Many poor provinces in the country are located in northern Cambodia. Siem Reap Province is one of them ranked at the 9th poor province with the poverty rate of 21.3% (MRD 2011). The project is designed to serve as a pilot intervention and is aimed at to assist a group of poor poultry farmers in Tbeng Lech Village, Banteay Srey District of Siem Reap Province, with a provision of agricultural inputs on cost recovery basis, who are willing to improve their agricultural production and enhance their income and livelihoods through participatory self-help efforts,. At the same time, the project is also aiming to promote supporting capacity of the Farmer and Nature Net Association (FNN) and CamboDHRRA which have been helping rural communities, and creating a sustainable rural participatory mechanism for self-reliance.

1. Long-term Objective

Long-term objective of the project is to assist self-help efforts of poor rural communities to enable them to improve living conditions and attain sustainable livelihoods.

2. Immediate Objective

The immediate objective of the project is to assist self-formed poor poultry farmer group in scaling up their farming activities and enhance income on sustainable basis by providing agricultural inputs on loan and building their technical and self-help capacity.

3. Expected Outputs

- 3.1. A well-managed and self-motivated beneficiary group (Poultry Group) which is capable in developing production plan, conduct cost benefit analysis and monitor group activities, utilizing the inputs provided by the project effectively and reimburse the cost (to FNN) without defaults as per the repayment schedule;
- 3.2. Increased annual income of each beneficiary by 50% through sustainably increased production and enhanced marketing skills;
- 3.3. A Revolving Fund is established and effectively utilized by FNN for the allocation to new beneficiary group (s) based on the roles and procedures (to be prepared by FNN and agreed upon by the Project Steering Committee) governing the selection of beneficiaries and reutilization of the revolving fund

3. バングラデシュ北部における乳用ヤギの普及による小規模農民グループ支援事業

この事業は貧しいバングラデシュ北部地域において、村民（特に女性）たちの収入の増加や栄養の改善を目指して、インドなどから乳用のミルクの生産量の高い品種のヤギを購入し農民達にローンで配分し、それに伴う生産技術の伝搬や訓練、ミルクの販売や加工技術の伝搬などを行おうというものである。昨年度、タンガイル地域のNGOのSSSに進言し、支援する方向で話を進めたが、SSSは独自の財源で既にこの事業を始めたとの情報がある。こちらの支援なしで事業が行われていれば歓迎すべきことである。今後、SSSの情報の確認と共に、他の地域、特に一般社団法人シェア・ザ・プラネットが活動した経験のあるシェレット地方の北東のホビゴンジなどを対象に、事業の可能性を探る予定である。バングラデシュには2020年度9月か10月頃に一般社団法人シェア・ザ・プラネットの技術顧問として訪問する予定で、その時にでも具体的な可能性が話し合われることを期待する。

4. タイ南部のサゴヤシ林の保全と有効利用

2019年度はナコンシタマラート県の関連する大学の協力のもと、1000m²のサゴヤシ林造成用の試験圃場を農民から提供され、2020年1月から6月の期間に農地の整備や植林用の穴堀を農民に委託して実施した。基本的には1000m²の農地に3メートル間隔でサゴヤシの苗木の植林を行い、総計で120本の苗木を植える予定である。苗木は一本120バーツ（輸送料を含む）で購入し、2020年6-7月の雨季に植林する予定である。それと並行して、ナコンシタマラート地域やトラング地域のサゴヤシの栽培（特に葉による屋根材生産用として）の現状調査と農民の収入に及ぼす経済的分析を行う必要性があり、これば将来baseline surveyとして役に立つと思われる。

以上にもとづき、2020年度に支出予定の予算は以下である。

➤ サゴヤシ苗木購入費用	@TB 120 x120本 =	14,400 バーツ
➤ 科学肥料 1回 50kgバック	@TB 1,100 x 3バック (1年)	3,300 バーツ
➤ サゴヤシ調査と経済分析 ナコンシタマラート地区 (委託)	20,000 バーツ	
➤ サゴヤシ調査と経済分析 トラング地域 (委託)	20,000 バーツ	
小計		57,700 バーツ
日本円換算 (1バーツ=3.41円)		(197,000円)

5. グローバル人材育成支援

若者や社会人に対するグローバル人材育成支援は当法人の中心課題の一つであり、昨年度まで”その他の活動”として扱われてきたが、本年度から独立した事業の一つとして扱うこととした。具体的には以下である。

➤ アボカド植林（メーキャンタイ村）ボランティアツアーアクティビティ費用 7月末8月初旬、20名予定。現地交通費、民泊2泊宿泊費など	40,000 パーツ
➤ コーヒー豆摘み取りボランティアツアーアクティビティ費用 2021年1月中旬、20名予定。現地交通費、民泊2泊費用等	40,000 パーツ
➤ タイ国立シーナカリンウィロート大学におけるSDGs、貧困、格差や食料問題等に関する講義（2020年8月半ばから2021年1月まで毎週3時間授業）	
➤ 国内外の大学や国際会議等における講演など（現在未定）	
小計	80,000 パーツ
日本円換算（1パート=3.41円）	(273,000 円)

6. その他の活動

上記の活動以外に、以下の活動を行う予定である。

- 國際NGOや政府機関などに対する技術アドバイス、
- マスコミやメディアを通じた啓蒙活動（新聞のコラムニストとして毎月執筆中）
- 農業や食料安全保障等に関する国際会議への参加
- 明治大学や筑波大学、その他の大学に対する支援活動
- 新しいプロジェクトの発掘調査、事前調査など
- 新しい事業案の作成と外部基金やCSR等への応募

7. 2020年度事業予算

➤ 1. タイ北部メーセンタイ村のコーヒーを中心とした 加工技術向上と山岳民族の生活向上支援	2,322,000	円
➤ 2. カンボジア小規模農民グループへの自活支援	700,000	円
➤ 3. バングラデシュにおける乳用ヤギの普及	未定	0 円
➤ 4. タイ南部サゴヤシ林の保全と有効利用	197,000	円
➤ 5. グローバル人材育成支援	273,000	円
➤ 6. その他の活動	未定	0 円
<hr/>		
計	3,492,000	円

8. 2020年度の収入の予定

収入予定	前年度からの繰越金	759,879	円
	社員からの年会費	40,000	円
	寄付金	2,692,121	円
<hr/>			
収入（予定）の合計	3,492,000 円		